



# まぼろしの魚

# 海のトビラ

## 清流・長良川の サツキマスから学ぶ



写真提供/世界淡水魚園水族館アクアトキ

岐阜県を流れる長良川で「まぼろしの魚」といわれるほど減少しているサツキマス。川と海を行き来している回遊魚に今、何が起きているのでしょうか？川で生まれ、海で育ち、やがてふるさとの川に戻って来る、その一生をたどりながら、「海の今と未来の長良川」について考えてみましょう。

### サツキマスの一生

- 11~12月** ふ化(卵から生まれる)→10カ月ほど川で過ごす
- 10月ごろ** スモルト化(銀毛)→海で生活できるように体の色が変化する
- 11~12月** 海へ(長良川から伊勢湾へ)→海で過ごす
- 4~5月** そ上(海の水温が川と同じになるころ、川をのぼる)
- 5~6月** 上流へ
- 10月ごろ** 産卵(上流=郡上市あたりで卵を産む)

### サツキマス豆知識

#### 名前の由来

5月の別の言い方「さつき」のころに、海から河川にそ上するからなどの説がある。市場での名前は「カワマス」。

#### 「サツキマス」と「アマゴ」

川で卵から生まれ、海に行き、再び川に戻るものがサツキマス。河川に残るのがアマゴ。鮮やかな朱色の点が特徴。サツキマスは、海に向かう前に体が銀白色に変わる。ともにサケ科。

#### 日本海側では

川で生まれ、川に残るのがヤマメ。そのうち、銀白色に変化し、海に行くと川に戻るのがサクラマス。

### 教えてサツキマス①

#### サツキマスが減少!? 川や海の変化が原因

長良川漁業協同組合の飯田哲夫さんは、サツキマスの減少について、「川の流れが変わってきているからでは」と言います。



飯田さんは「産卵場所を確保するなど、サツキマスにとってすみやすい環境を作ることが大切。川にごみを出さないことも意識してほしい」と話しています。

### 教えてサツキマス②

#### 干潟が減少!? 海のすみかやエサにも影響

サツキマスは長良川を下ると、伊勢湾で過ごします。沿岸には干潟が広がっていますが、いくつかの役割があり、高松干潟を守る会の水谷いずみ会長は、特に4つを挙げています。①天然の浄化そう②海のゆりかご③渡り鳥の国際空港④人の生活の糧をくれる。

干潟では、さまざまな種類の生物が生息し、すみかやエサ場になっています。「干潟の減少は生き物にとって大問題。川は海とつながっている。川のごみは海に流れ着くことを意識してほしい」と強調します。

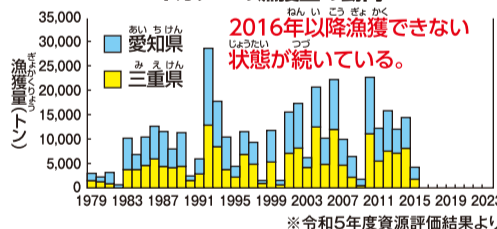


### 教えてサツキマス③

#### イカナゴの漁獲量が減少

伊勢湾では、サツキマスが食べるイカナゴもとれなくなってきています。原因について、愛知県水産試験場漁業生産研究所の今泉哲さんは、①高水温②他の魚による食害③エサ不足による体力低下を挙げます。長年、漁師をしている愛知県ばっち網漁業者組合の磯部治男組合長は、「かつては川から流れてくる水に栄養分が多かった。プランクトンなどエサの豊富な海にすることが大切」と話しています。

イカナゴの漁獲量の動向



## サツキマスから学ぶ 海の今と未来 シンボルフィッシュとたどる 清流長良川の旅

海と日本プロジェクトin岐阜県とは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環。一般社団法人海と日本プロジェクト岐阜(事務局:岐阜放送)が中心となり、海への関心を高め、海の課題を自分ごととして考え、行動してもらうための取り組みを行っています。



### テレビCM出演決定!

県内の小学5、6年生20名が、体験学習ツアー「サツキマスから学ぶ海の今と未来 シンボルフィッシュとたどる清流長良川の旅」に参加。海の課題を解決するための行動を訴えるテレビCMを考え、出演しました。

#### 放映期間

9月17日(火)~11月30日(土)

#### 媒体

- ①ぎふチャンネル(毎週金曜日18:55~19:25の番組など)
- ②岐阜バスの車内広告「バスチャンネル」※一部路線を除く
- ③JR岐阜駅前「NEWS VISION」(6:00~22:00の1時間に1回)

